研究科長・学部長就任にあたり
－自然と真摯に向き合う－

研究科長・学部長
武田 洋幸
（生物科学専攻 教授）

この度，福田裕穂先生の後任として，理学系研究科長・理学部長を務めることになりました。1877年（明治10年）の創立以来，多くの成果と人材を輩出してきた理学系研究科・理学部の運営に携わる機会を与えていただいたことは，身に余る光栄であると同時に，身の引き締まる思いであります。

私は現在，小型魚類（メダカとゼブラフィッシュ）を用いて，ひとつの受精卵からからだの軸やさまざまな機能と形を持った器官ができてくるメカニズムを研究しています。私が発生学の世界に飛び込んだのは，学部3年生の発生学実習で観察したニワトリの発生のダイナミックさと美しさに魅了されたからです。

理学はあらゆる自然現象を研究対象としています。そしてその研究動機は探究心（好奇心）です。この理学の研究により，われわれは自然の摂理をより深く理解し，新技術へ応用できるシーズを得て，その結果人類社会が発展してきました。しかし「自然」はもっと深淵で，手ごわく，時としてわれわれの慢心や驕りに強い警鐘を鳴らします。2011年3月11日の東日本大震災や福島原発事故がその象徴です。「自然」と向き合っている私たちは常に謙虚な気持ちを忘れてはなりません。予断を断って，観測や観察を通して「自然」に真摯に耳を傾け，実験により「自然」に謙虚に語りかける。このくりかえしこそが研究の原点です。最近よく話題になる研究不正などとは無縁の世界です。

さて理学系研究科・理学部において，理学の研究をさらに発展させるのに必要なものは何でしょうか。私は，時間，多様性，交流を特に挙げたいと思います。最近大学教員の時間の減少，劣化が問題となっています。実際，教員だけでなく，学生も以前にくらべれば，忙しくなっています。多くの時間が，管理業務や研究費獲得に割かれているのは事実です。私は，皆さんに管理業務などで負担がかからない運営を心掛けたいと思っています。学問の多様性についてはどうでしょうか。理学系研究科は，伝統ある学理体系を有する専攻に加えて，フォトンサイエンス研究機構，生物普遍性研究機構，宇宙惑星科学機構が最近設置されました。それぞれの機構では，専攻や部局が異なる，多様な考えと能力を有する研究者が集まっており，既存の分野に収まらない新しい学術がこれらの中から生まれるはずです。私はこのような取り組みを支援していきたいと思います。最後に交流ですが，特に学生の国際交流支援は重要と考えています。すでに，優秀な学部生を海外に派遣するプログラム（Study and Visit Abroad Program：SVAP）や海外の優秀な学部生を選抜して受け入れるサマープログラム（University of Tokyo Research Internship Program：UTRIP）を実施しています。さらに2014年（平成26年）度からは，日本人および外国人編入生を対象とした英語講義による学部後期課程コース「グローバルサイエンスコース」を，2016年（平成28年）度には，英語だけで学位が取得できる国際卓越大学院コースを新設しました。これらを力強く推進していきます。

私は，理学系研究科・理学部を構成する教職員，学生の皆さんとともに，自由で多様な研究を守り，そしてここで行われる研究・教育活動を通して，人類社会の発展に少しでも貢献していきたいと思っています。ご協力，どうぞよろしくお願いいたします。

略歴

理学系研究科生物科学専攻教授。専門は動物発生学，発生遺伝学，ゲノム科学。1984年東京大学大学院理学系研究科修士課程修了，1985年理学博士（東京大学）。2001年より現職。2007年総長補佐。2008-2011年広報委員長。2015-2016年総長特別補佐。2015年比較腫瘍学常陸宮賞受賞。

2017（平成29年）年度 理学系研究科執行体制

研究科長・評議員	武田　洋幸（生科）
副研究科長・評議員	大越　慎一（化学）
副研究科長	星野　真弘（地惑）
	山本　　智（物理）
研究科長補佐	櫻井　博儀（物理）
	田近　英一（地惑）
	佃　　達哉（化学）
	塩見美喜子（生科）
事務部長	戸張　勝之（事務部）